

平成29年度 総社小学校 学校評価書資料

学校経営目標	具体的計画	29年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の育 充 実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより、児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。（心優しい子供）（礼儀正しい子供）（総社を愛す子供）	①進んであいさつができて いるという回答が85%以上である。 （児童、保護者、教職員）	教職員…81% 保護者…80% 児童…90%	B	・現状通り、1週目に挨拶のめあてを設定し、担任が指導する。児童会ポストを活用し、各学級の挨拶の取組を全校に広げたり、委員会の活動を活発に行えるようにしたりする。	教職員…70% 保護者…81% 児童…89%	B	・取組がより分かるように、品格教育の目標に挨拶を絡めて、強化週間を作ったり、総小通信等を通じて、各学年でも挨拶について取り組めるように提案したりする。 ・時と場に応じた挨拶ができるように心の教育（SEL）の充実を図る。	・自己評価は適切である。 ・アンケート結果において教員の意識が下がっているのは、「すすんで」という文言に対して、児童が自発的であるかどうかについて厳しい判断をしたからではないだろうか。実際に、元気に挨拶している児童の様子は見受けられる。今後は「元気」かつ「自発的」なあいさつ運動に取り組んでほしい。
		②思いやりの心をもって生活しているという回答が85%以上である。 （児童、保護者、教職員）	教職員…94% 保護者…93% ○友達への優しさ 児童…94% ○友達の優しさ 児童…93%	A	・現状の取組を継続しながら、さらに学級内のピア・サポートやSELの充実を図る。 ・アンケート項目を見直した結果、児童にとって分かりやすい問いになった。 ・人権週間や人権作文、標語について指導する際に、思いやりや友達との関わり方について、担任が話をする。	教職員…91% 保護者…94% ○友達への優しさ 児童…91% ○友達の優しさ 児童…89%	A	・現状の取組を継続していく。 ・教職員が、児童を呼ぶときに、「さん」で呼ぶように徹底することで、授業中の呼び方の差別をなくし、児童の人権意識を喚起する。	・自己評価は適切である。 ・思いやりの心については良い取組ができています。特に、保護者アンケート結果が高いのが良い。 ・いじめの認知件数が増えたことは前向きに捉えてほしい。大きな問題になる前に、事前に処理できたこと、教員の対応も適切であった。今後も気になる点については迅速に対応してほしい。 ・友達への優しさの項目が高いことは非常に評価できる。これまでの取り組みの成果だと思われるので、改善策にもある児童の人権意識を喚起し続けてほしい。
2 健 康 ・ 体 力 づ り	【たくましい子】 ②健康教育、特別活動を充実することにより、児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに、目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。	③基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80%以上である。 （児童、保護者、教職員）	教職員…92% ○早寝・睡眠 保護者…82% 児童…73% ○メディアルール 保護者…75% 児童…75%	B	・低学年には紙芝居「ねむりの大切さ」、中学年にはねむりの大切さのプレゼンを実施する。 ・各クラスでメディアのルールについて指導、声かけをする。また、10月のメディアコントロール週間前にルール作りが100%になるようにする。ルールづくりのめあて記入欄に保護者確認印を設けて、家庭でのルールの向上を図る。 ・情報モラル授業を実施する。（・保護者の負担減のため、親のチェックをできるだけ1つにまとめる。）	教職員…94% ○早寝・睡眠 保護者…81% 児童…71% ○メディアルール 保護者…72% 児童…74%	B	・現状の取組を継続しながら、2月のメディアコントロール週間では、保健委員会等で、メディアのルール作りを意識できるように大型のバッチを活用する。 ・児童の実態や家庭での状況を把握するために、生の声を聞き、取組の妥当性を検討するとともに、新たな取組の必要性を模索する。	・自己評価は適切である。 ・メディアコントロールは課題も多く実際に指導することは難しい。早寝早起きやメディアコントロールは家庭主体で行うことであるが、学校がルールを決めることで、保護者は子どもを指導しやすい環境になる。教員と家庭が正確な情報を取り合うために、家庭との連携をより一層意識してほしい。 ・時間のルールを決めることが大切である。時間のルールを決めることでメリハリのある生活を送ることができる。
		④行事などに目標をもって最後まで頑張っているという回答が85%以上である。 （児童、保護者、教職員）	教職員…100% 保護者…95% 児童…94%	A	・行事ごとに、学年、学級、個人にめあてを持たせ、振り返りを必ずするようにする。その内容は、各学年の実態に合わせて行う。	教職員…91% 保護者…95% 児童…94%	A	・現状の取組を継続していく。	・自己評価は適切である。 ・各行事が充実していることは総社小学校の良い点なので、今後も継続して行ってほしい。 ・行事予定に関する変更点を保護者は知りたいので、情報発信をより一層してほしい。

学校経営目標	具体的計画	29年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策等	自己評価の適切さ
3 確かな学力の育成	【すすんで学ぶ子】 ③特別支援教育の視点や協同学習を取り入れることにより、児童が基礎学力を身につけるとともに、主体的に学ぶことができるようにする。	⑤進んで学習に取り組んでいるという回答が85%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…88% 保護者…89% 児童…90%	A	・現状の取組（デジタル教科書や視覚教材の活用、児童が主体的に学習に取り組めるような授業の工夫等）を継続して行う。	教職員…85% 保護者…88% 児童…86%	A	・現状の取組を継続していく。 ・自己評価は適切である。 ・多くの児童が主体的に学習していることは、先生方の指導のおかげである。引き続き、児童の発達段階に合わせた工夫ある指導をお願いしたい。	
		⑥授業が分かりやすいという回答が85%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…96% 保護者…84% 児童…89%	B	・現状の取組（「めあて」や「まとめ」の明確な授業、思考力や表現力を高める協同学習や書く活動、個に応じた指導等）を実施する。	教職員…98% 保護者…90% 児童…89%	A	・現状の取組を継続していく。 ・自己評価は適切である。 ・保護者の意識が高くなっている傾向は良いことである。 ・授業中において、児童の発達段階に合わせた話し方やポイントの提示を行っていることはすばらしい。	
	④生活科、社会科、総合的な学習の時間の充実により、社会参画力を培う。 (総社を愛す子供)	⑦国語と算数の単元テストで80点以上の児童が、80%以上である。 (教職員)	教職員…55%	C	・今年度は、基準を明確にしたためポイントがアップしたと考えられる。総チャレや朝学習の取組は引き続き行っていくようにする。 ・どの学年も図形単元に課題があることが分かった。少人数指導やITを活用するとともにボランティアや学年付きの総務の先生にも、協力してもらいながら、個別に丁寧に指導していくようにする。 ・下位の子の学力を上げるため、基礎基本の充実を図るようにする。そのためには、学年間で打ち合わせを充分に行い、課題を共有してから授業を行うようにしたり、授業中は前時との違いをしっかりと把握させ、既習の何が使えそうかを考えさせたりするようにする。また、休み時間等を利用して、個別指導を充分に行うようにする。さらに、家庭学習が充実するように、時間の使い方や自主勉強の取組について個別にアドバイスするようにする。	教職員…48%	C	・単元テストを実施する時期によって達成度が変わった。算数では、図形単元、思考力を伴う単元。国語では、説明文、書くことに課題があることが分かった。課題を克服できるように、研修を深めていきたい。 ・テストの結果をフィードバックしてできていないところを補充し、定着するように努めてきた。また、朝学習のボランティアに来ていただき、個別の対応ができるように配慮してきた。しかし、学年間での打ち合わせ時間の確保が難しく、下位の児童の学力を上げるための手立てに弱さが見られた。下位の児童の学習意欲を喚起し、基礎学力を付けていく指導の工夫を図っていきたい。 ・基礎基本がどの部分なのか、的を絞って徹底した指導ができるように、達成基準を改善していきたい。	・自己評価は適切である。 ・単元テストの項目を基本・応用の2つに分けることを念頭に置いてほしい。 ・今年度の自己評価の結果から、今後の方向性として、はじめに「基礎・基本」を徹底させ、その後、「応用」に取り組むという改善策を出していることや課題を見出していることは非常に評価できる。 ・今後も継続して、達成基準を高く設定したまま、新たに生じた課題について取り組んでほしい。良い評価を出すために達成基準を低くすることはない。
4 開かれた学び	(総社を愛す子供) ⑤各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。	⑧学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85%以上である。 (保護者、教職員)	教職員…82% 保護者…88%	B	・行事が終わって2週間以内にホームページの更新をできるようにしていきたい。	教職員…93% 保護者…91%	A	・現状の取組を継続していく。 ・自己評価は適切である。 ・情報発信はこれまで以上に数も多く、様々な面で行っている。校舎建て替えについて問われることも多い中、必要な情報が発信できている。 ・今後は、発信回数に加えて、発信内容についてさらに検討をしていってほしい。 ・保護者と接する機会を通して、引き続き発信を行い、内容については保護者のニーズをさらに追及していってほしい。特に、学校の建て替えに関しては、保護者は不安が多いので、不安を解消するためにも見通しのたった情報提供をしてほしい。	
		⑥家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安全・安心を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。	⑨登下校時の安全確保の取組を行っているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員)	教職員…96% 保護者…84%	A	・工事の進行等に合わせ、担当学年以外も出て、声かけや、指導をしていくことで、安全の確保を図るようにする。 ・下校時のボランティアを増やしていけるように呼びかけをしていく。	教職員…96% 保護者…87%	A	・児童の安全を第一に、校舎改築の工程に沿った指導を継続していく。 ・児童の登下校のボランティアを増やしてきた。さらに地域の協力を得ながら、児童の安全確保を図っていく。 ・自己評価は適切である。 ・保護者アンケートの結果、登下校の安全については高評価と低評価に2極化している。引き続き安全指導を行ってほしい。特に、校舎の改築に伴い、これまで使用できた場所の変更や使用できなくなる際の対応についても意識して、児童の指導にあたってほしい。 ・学校ボランティアの活用状況についても発信してほしい。
	⑩学年×10分+10分勉強しているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	⑩学年×10分+10分勉強しているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…96% 保護者…79% 児童…89%	B	・家庭学習の時間を記入する欄を設けた「がんばりカード」などに継続して取り組む。 ・家庭学習強化週間は、保護者の意識付けを図るのに効果的であった。継続して取り組んでいくようにする。	教職員…95% 保護者…78% 児童…86%	B	・継続して取り組むことで、基準に近づくと考える。 ・⑦とも関連させ、基礎が身に付く家庭学習の内容を引き続き考えていく。	・自己評価は適切である。 ・アンケート結果は横ばいであるが、高い目標を持つことは大切である。 ・学年×10分+10分勉強は、勉強に向かう意識を培う目安として評価できる。一方で、習い事や家庭の事情により時間といった量だけで捉えてしまうことにも限界がある。今後は時間に加えて、勉強内容についてもしっかりと吟味してほしい。 ・教室の後ろ等に自主勉強ノートの掲示することは、児童自身のやる気につながり、友達の勉強方法から自己の勉強方法を生み出すきっかけとなる。教員のコメントが児童のやる気や自己肯定感につながるので、継続して行ってほしい。
	⑪家で読書を行っているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員…78% 保護者…62% 児童…77%	C	・土、日には本をもって帰ること。2冊のうち1冊は読み物の本を借りること、等、教職員間での徹底が図れていなかった。 ・現状の取組（家読カード、家読週間、図書時間の充実、本の紹介や読み聞かせ等）が充実しているので、継続して取り組むようにするとともに、児童に家で本を読むように声かけをしていく。 ・保護者にも、懇談や、学年、学級通信等で、本のよさについて伝えていくようにする。	教職員…87% 保護者…64% 児童…73%	C	・学年ごとに、懇談での本の紹介、読書ノートの活用等、工夫して取組を実施しているが、数字に表れていない。 ・校舎改築のため、外遊びが制限されるので、学校での読書量を増やす取組も実施する。 ・今まで行っている読書指導は続けるが、校内での指導を徹底するため、学校評価の家庭や地域との連携を深める項目としては必ずすことにする。	・自己評価は適切である。 ・朝読書や図書の時間は継続してつなげていってほしい。図書館に行く時間を学校の中で強制的に作ることで、習慣化されることもある。 ・学校評価の項目から減らしても、学校内で読書指導は引き続き徹底して行ってほしい。一方、学校だけで読書週間をつけることには限界があることから、家庭と連携して家でも読書する習慣を身に付けることも意識してほしい。	

